

低温と大雪に伴う被害防止対策について

気 象 災 害 対 策
令和 2 年 1 2 月 2 2 日
中央普及支援センター

12月21日に新潟地方気象台から「低温と大雪に関する早期天候情報」が発表されました。29日頃からは、冬型の気圧配置が強まり、気温は平年よりかなり低く、降雪量は平年よりかなり多くなる可能性があり、警戒が必要です。

また、12月14日以降の降雪で能登地域ではパイプハウスの被害が発生しており、被害が拡大しないよう特に警戒が必要です。

今後、年末年始にかけて、気象台が発表する気象情報や注意報・警報に留意するとともに、次の事項に注意して施設などへの被害防止に努めて下さい。

[パイプハウス]

- (1)使用していないパイプハウスは、ビニールを必ず外しておく。
- (2)ハウスは筋交い、中柱等で補強する。その際、ハウスが降雪後にねじれないように補強は左右対称とする。
- (3)ハウスの隣棟間隔が狭いとき（間口の1/2以下）は、1棟おきにビニールフィルムをはずし、雪の堆積場とする。
- (4)側壁に堆積した雪を融雪するため、できるだけ高い位置に散水パイプを設置する。散水施設を設置できない場合は、かん水チューブを堆積した雪の上にセットできるように準備する。
- (5)強風の場合にはハウスの戸締まりを徹底し、ハウス内への吹き込みを防止する。
- (6)フルオープンハウス等でビニールを天パイプ部分に巻き上げ収納してある場合は、強風でビニールが広がらないよう結束を確認する。
- (7)ハウス上の積雪が滑落しない場合は、手作業で強制的に滑落させ、天井に雪を乗せたままにしない。またハウスの側壁に積もった雪は早期に除雪又は融雪する。

(8) 急激な降雪により積雪が1メートルを超えるような緊急時には、左右対称にビニールを切ってハウスの倒壊を防止する。

〔麦類〕

(1) 排水溝の点検

融雪後、圃場巡回を実施し、地表面の排水が速やかに行われているか排水溝の点検を行い、必要があれば排水溝の手直しや追加を行う。

〔野菜・花き〕

【事前対策】

(1) 施設野菜・花き

- ① 二重トンネルや被覆資材を利用して熱の損失を防ぐ。出入口やビニールの継ぎ目、破損か所の点検補修を行う。
- ② フリージアは、3℃以下にならない様、ストーブやジェットヒーター等で暖房し凍霜害を防止する。使用時は完全燃焼等に注意する。
- ③ 収穫期を迎えている品目（こまつな等）については、被害にあったものを除き、速やかに収穫・出荷する。
- ④ 育苗温床のトンネル換気は、施設内が15℃以上になってから実施する。なお、換気を行うにあたっては、トンネルの天井部を徐々に開放し、急激な温湿度の変化が起こらないよう留意する。
- ⑤ 霜害を防ぐため循環扇を稼働させるほか、過湿による病害の発生を防ぐため、積極的に換気し湿度の低下に努める。

(2) 露地野菜・花き

- ① 霜から農作物を守るため、不織布等の保温資材で被覆する。

野菜の低温障害一覧

品目	障害の種類	発現部位	発生条件	対策として考えられる事項
トマト	窓あき果 条斑果 チャック果	果実	低温、多窒素、多水分、Caの吸収阻害	適温管理 少窒素 適正水分管理 品種選定 開花時のCa散布(0.14%)
キュウリ	心止まり カンザシ	生長部	低温、短日、過剰施肥	適温管理 長日、適正養水分管理
スイカ	心止まり	生長部	低温、過剰施肥	適温管理
イチゴ	奇形果	果実	受精不能	訪花昆虫の活動温度確保

【事後対策】

- ① 施設野菜・花きでは、気温が上昇する前からハウスサイドを開放して外気温程度の低い温度で徐々に解凍し、元に戻ってから日光に当てるようにする。
- ② 草勢の回復と促進を図るため、液肥を2～3回葉面散布するとともに、

生育を見ながら速効性肥料による追肥を行うとともに、凍死部位からの病害拡大を防ぐため、必ず適用薬剤の散布を行う。

- ③被害が甚だしく回復が望めない場合は、新たに、は種や定植をやり直す。また、適期を逸する場合は他の作物への転換を図る。
- ④露地野菜・花きでは、積雪時は、早期に融雪するため、くん炭等の融雪資材を散布するとともに、雪解け水が停滞しないよう排水溝を確保し、速やかな排水を促す。

[果樹]

- (1) 樹体や果樹棚を支柱等で補強する。特に、粗剪定が終了していない園や主枝や亜主枝が長大化している園では、雪の重みによる枝裂けや棚の倒壊が起きやすいので対策を徹底する。
- (2) 冠雪が50cmを越えると枝折れや枝裂け等の被害が出やすいので、降雪量を見ながら着雪の払い落としを行う。
- (3) ドカ雪の場合は、果樹棚等の施設への積雪状況に注意し、必要に応じて早急に雪下ろしを実施する。

[畜産]

- (1) 畜舎等の施設点検を行い、老朽化等により倒壊の恐れがある場合は必要に応じて補強等を行うとともに、屋根の雪下ろしを行う。畜舎の周囲では、飼料運搬車等の車両通行を確保するための除雪に努める。
- (2) 停電等緊急時に備え、自家発電機の準備、点検を行う。また、交通の遮断等非常事態に備えて、飼料の在庫確認と購入手当を早めに行い、粗飼料なども含めて給与する飼料が不足、急変しないよう留意する。
- (3) 寒さにより水道管が凍結して水が出なくなったり破裂することがあることから、水道管や蛇口などには、保温材や凍結防止帯を巻く、水を少し出す等により水道管の凍結を防止する。
- (4) 子畜や老畜・病畜については観察の強化に努め、体温維持のため飼料の増給や保温対策を行う。
- (5) 畜舎の換気が不十分とならないよう、換気扇、窓の開閉をこまめに実施して、空気の汚染による生産性の低下防止に努める。

なお、雪害に対する被害防止対策については、雪害対策マニュアル（平成

30年11月発行(令和2年2月改定)、<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/noken/kisyousaigai/documents/020201.pdf>) を参考にしてください。

低温と大雪に関する早期天候情報（北陸地方）

令和2年12月21日14時30分 新潟地方气象台 発表

北陸地方 12月29日頃から かなりの低温

かなりの低温の基準：5日間平均気温平年差 -2.5°C 以下

北陸地方 12月29日頃から 大雪

大雪の基準：5日間降雪量平年比 221%以上

北陸地方は冬型の気圧配置が続き、平年より低い気温で経過しています。向こう一週間程度は平年並か平年より高い日が多いですが、その後は大陸からの寒気の影響を受け、気温は低くなる見込みです。29日頃からは、冬型の気圧配置が強まり、気温は平年よりかなり低くなり、降雪量は平年よりかなり多くなる可能性があります。

農作物の管理等に注意するとともに、除雪などの対応、水道管の凍結等に留意してください。また、最新の2週間気温予報など、今後の気象情報に留意してください。

<参考>

この期間の主な地点の5日間降雪量の平年値は、以下の通りです。

地点	平年値
相川	4センチ
新潟	8センチ
高田	26センチ
伏木	16センチ
富山	17センチ
輪島	8センチ
金沢	10センチ
福井	12センチ
敦賀	8センチ